

長岡貞夫氏が
平成12年度デザイン功労者表彰を受賞

去る10月13日、赤坂プリンスホテル「五色」において、当協会元理事長・現理事 長岡貞夫氏が長年に亘るデザインの振興及び国際交流に対する功績により、平成12年度デザイン功労者表彰を通商産業大臣より受けられました。ご本人はもとより、当協会にとっても大変喜ばしいことであり皆様にご報告いたします。（事務局）

功労者賞を受賞して

会員 長岡貞夫

デザインは結果として「時」に個を際立てますが、その過程では、布を織りなすようにデザインという横糸が幾筋もの縦糸を絡めながら創造するプロセスでもありましょう。それは、共同作業のアノニマスの行為でもあり、多くの人との関わりによって成就できるものでないでしょうか。この度の功労賞も人々に支えられ今日まで歩んでこれた結果の受賞であることを思うと感謝の気持ちで一杯です。

この賞が日本のデザイン界に影響し、リードしてきた人々に与えられていることを耳にするにつけ、身にあまる思いです。同時に何か舞台の上でスポットを当てられ眩しさと照れくささを感じる心境でもあります。

振り返れば、デザインで業を立てようと思ったって40余年、JIDに席をおいて30年を越そうとしてますが、この間が一瞬のように思えてなりません。それは走馬灯のように目まぐるしく変わる道のりであったからでしょうか。しかしこの道は変化に富み刺激ある魅力的なものでもありました。20世紀の幕がおりようとしているときに、このような賞をいただいたことは一つの時代の区切りとして因縁を感じます

私はかねてから、芭蕉の「不易流行」という言葉にこだわってきました。芭蕉は、詩的生命の永遠性と流動性



JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

2000 11・12

「目次」

● 長岡貞夫氏が功労者表彰を受賞	1
● 本部委員長の抱負	2
● 実態調査の実施に伴う協力をお願い	3
● 異動のお知らせ	3
● 平成12年度第2回理事会報告	4
● JID meet the World	6
● 会員ワーク集原稿受付	6
● 平成12～13年度本部運営組織図	7
● 平成12～13年度事業支部運営組織図	8
● JID NEWS 関東	10
● JID NEWS 関西	12
● JID NEWS 九州	14
● JID NEWS 中部	16
● 新入会員の紹介	17

が、じつは根はひとつであると言っています。人間の創造的な営みにはジャンルこそ違え「変わるべきものと変わらざるもの」の相克であるという事ではないでしょうか。デザインの基本は、まさに「不易流行」であると考えています。

新世紀がそこまできました。今までのデザインの概念ではとらえ難いうねりを感じます。

これを機に新たな意識（ism）のもと創造力を蓄え、青年の気持のようにさらなる道のスタートラインに立ちたいと思います。

最後に、公私わたって叱咤激励して下さった方々にこの稿をかりて重ねてお礼を申しあげたいと思います。ありがとうございました。

完

平成12年10月9日

選考委員会

選考委員会委員長 大野 美代子

□選考委員会の現状

選考委員会は、委員の選考によって選ばれた10人の委員によって構成されている。「JID賞」の選考が主たる業務であるが、昨年度からOZONに於ける「JID賞展覧会」の開催や授賞式も加わり、これには他の委員会の協力を得ている。先日は国際委員会の依頼を受けてイタリアの雑誌「Ottagono」の記事〈Focus on〉の筆者選考も行った。JID賞については、第一次の選考を終えたが、インテリアスペース部門、インテリアプロダクト部門、インテリア研究・著作・業績部門、学生部門の4部門に計65点の応募作品が集まっている。

□今後の計画等

第一次の選考によってしぼりこまれた作品の現地調査・現物調査を行い、11月8日には2名のゲスト審査員を迎えて、最終選考を行う。昨年度の展覧会が好評で、今年度の展覧会は新年早々に会期も2週間に延期してOZONで開催されるが、JIDユースや肝心のJIDメンバーの応募が少ないことは、大変残念である。インテリアデザイナーが社会的に認識され、生き活きと活動するために、〈JID賞〉が一役を担うことを願ってやまない。

JID本部国際・交流委員会活動報告

本部交流委員長 堀川 始

本部交流委員会は 本部国際委員会と共同作業をすることでパワーアップを図ります。2000～2001年の活動予定（交流、国際の合同企画です）

○新理事長木村さんと今期の展望を話合う会……7月17日（月）無事終了

四谷のバーラウンジ『サブニール』で飲み食いしながら、本音のトークを27名の出席者が、JIDのこれからを語り合った。

○サロンミーティング（サロン感覚でおしゃれなパーティー）……9月29日（金）無事終了

外部（幅広く）との交流をはかり、JID会員獲得につながる事を目的としたパーティーJID meet the World（第1回）『イタリアデザインと北欧のデザイン、キーワード？』喜多俊之氏、川上玲子氏をゲストに藤村盛三氏のコーディネートでワインを飲みながらのサロンミーティング 広いアクシスギャラリーで65人がアッと云う間の2時間をすごした。（東京インテリアプランナー協会、関東ユースの御協力を頂きました。）

○APSDA Congress 2000 in Bali（10月4～9日）……

一行22名で進行中

（バリ島、ツアーコーディネーター吉良ヒロノブ）

4泊6日 ￥7万～9万円

○IFI（アフリカ）会議……資料収集中

○2001デザイン供養の準備……まず淀江町にコンタクト

○DA2001デザイナーズエイドの協力（もっと身親にしてはどうか）……内容未定

国際、交流委員会で話し合った議題

◆各支部との交流（JID全体の交流）

九州、関西、中部、関東の4地区のイベントに合わせての交流委員会を開く

◆外部団体との交流（デザイン8団体、建築家協会、イン産協、等）

◆政府機関との交流（通産、建設、文部省、等）

◆地方自治体との交流（東京都、淀江町デザイン供養、等）

◆海外との交流（各国大使館、商務省、IFI、APSD、等）

◆関東ユース、各支部ユースの交流（デザイン啓蒙、次期会員の掘起し、等）

◆賛助会員との交流（賛助会員のメリットサービス、等）

◆東京ガス、OZONEとの交流

◆五反田デザインセンター、横浜住宅展示場、大阪ATC、名古屋国際デザインセンター等との交流

◆情報メディアとの交流（日経デザイン、ブルータス、ペン、室内、住まいの設計、等）

◆教育、研究団体（筑波短大、多摩美、武美、桑沢、文化学院、ICS、等）

インテリアデザイン発刊に際し

編集委員長 山田 晃

ECO DESIGNをテーマに編集作業を進めています。時代は、農業革命から産業革命へ、そして21世紀は、環境革命の時であるともいわれています。19～20世紀にわたる150年もの間の大量生産・大量消費がすでに地球環境を破壊し、すぐにも修復に取り組まなければ私達に未来はありません。

その修復のタイムリミットは、数十年といわれ、この期間に大きな成果を上げるために、生産に関わるデザイナーの役割が大変重要になってきます。産業廃棄物の大部分は、建設により出された物であり、建設・インテリア産業の責任は重大で、今、意識改革が必要であると考えます。

そこで、編集委員会として『エコ・インテリアデザインについて考える』をテーマに、まず、エコ素材の全体像を把握し、情報をできるだけ具体的な形で掲載したいと考えています。特に内装材にスポットを当てて、価格の情報掲載も検討中です。その他、エコ・インテリアデ

ザインに関する書籍の紹介なども考えてます。以上が編集委員会の進行状況です。

会員の皆様からの情報がございましたら御一報お願いいたします。

JID ニュースを作りやすく、読みやすく、 できればコストも安く

本部・情報委員会JIDニュース担当 石原 薫

JIDニュースは森谷延周様が長く担当され、ついで山口道夫様から私へとつながりました。ほとんど森谷様が作られたスタイルができていし、山口様軽くなされていた風なので楽だと思ったんですが、お二人の眼に見えないボランティア苦勞が解り、引き受けた事を少し後悔しています。

7月末本部で第1回の会議をしました。①ニュースをできるだけシンプルに(私にとって)、②皆さんが読みやすく、③できればコストも安くを目標に討議しました。私は関西なので次の会議は当分開きませんが、ニュースに対するご意見ご批評をお寄せください。

幼児からの造形教育を考える

教育研究委員会Aグループ

(山崎 晶副理事長担当、加藤 力委員長)

デザイナーの造形能力は人間にとっては、先天性のものなのか、それとも後から付加でき得るものなのか。このことについては、誰も正確に答えられない。そうした試みは今までおこなわれてこなかった為である。先天性のものであれば、教育は不用であるかという、そうとも言えない。

教育とは自分からは、見だし得なかった自らの才能を発掘する手段だ、ともいえるからである。発掘され、その才能を自らで押し広げようとすれば、その時期は早いほうが良いに決まっている。インテリア教育に携わる者であれば、誰もがうすうす感じている。大学や専門学校ではすでに遅すぎる。大人近くではなく、もっと早い頃からの鍛練が必要なことを。お絵描き教室等、造形教育などはすでにやっているというかもしれない。だが、絵画や映像とも異なるこの3次元のインテリア・環境についての幼児期教育はありうるのだろうか。

造形について、そして時間と空間さらには宇宙について考える、その力を身につけることが、今何よりも大切である。専門家ははぐくむと言うだけではない。この不確かな造形の世界を厳しく問いただす、多くの一般のまなざしが不可欠なのだ。

物理的条件から関西を中心としてこの委員会は開催されるものの、多くの会員のご意見・ご参加を期待したい。

Humanaizing Design

本部教育・研究委員会C 委員長 菅原孝則

JIDの会員となってから、多くの「縁」に恵まれました。今までの多くのご縁を大事に思い、本部教育・研究委員会Cの委員長を務めさせて頂くことになりました。

この委員会は、高齢者や福祉、あるいはユニバーサルデザインという広範囲なことを考えることからスタートいたしました。

21世紀を間近に今後の高齢化社会を考えることは、高齢者だけではなく、それを支える世代もあれば、子供たちをも含めた全ての世代を考えるという、当たり前のことに気付き、より人間的にという大きな括りの中で、Humanaizing Design-ということを中心に委員会活動を進めております。

JIDという組織のすばらしさと責任を楽しみ、努力して参ります。

皆様方のご支援、よろしくお願いいたします。

平成12年度特定サービス産業実態調査の実施に伴う協力のお願い(通商産業省)

会員各位

この度、通商産業省より上記の調査が「デザイン業」に対して行われることになりました。これは平成12年11月1日現在で統計法に基づく指定統計として我が国サービス産業のうち特定サービス産業について、その活動の実態と事業経営の現状などを明らかにすることを目的としています。この調査の指定を受けられた方は、ぜひご協力頂きたくお願い申し上げます。(事務局)

お知らせ

通商産業省人事異動

通商産業省生活産業局デザイン政策室

室長 千野 雅人

振興班長 齋藤 優 転任

振興班長 松前 好博 新任

振興係長 高橋 保

事務所移転

財団法人生活用品振興センター

〒103-0016東京都中央区日本橋小網町18-3

小網町ゼネラルビル3F

TEL 03-3639-8881 FAX 03-3639-8880

03-3639-9206

平成12年度第2回理事会報告

①会議名：平成12年度第2回理事会

②日時：平成12年7月24日（月）13：30～16：30

③場所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中（本人出席13名）

（理事長） 木村戦太郎

（副理事長） 阪井良種、山崎 晶

（理事） 秋山修治、泉 修二、川上玲子、
喜多俊之、吉良ヒロノブ、
佐々木恵子、須長壮太郎、
関 里繪子、中川帛子、山本棟子

（委任出席） 長岡貞夫、山永耕平

（監事） 川上信二、中川千年

（事務局） 峰尾事務局長代理

⑤議事

峰尾事務局長代理より「理事総数15名中、本人出席13名、委任状出席2名で本理事会は成立した。」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

Ⅰ 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部（長岡理事委任出席のため文書にて阪井理事が報告）

6月3日より7月20日までの各委員会の活動状況を報告。組織委員会はJID関東ユース会員の意見交換交流を実施。情報委員会は本部情報委員会と合同会議を開催、及びインターネットEメールアンケートの作成に協力。事業推進委員会は7月20日（木）「川崎市立日本民家園見学会及び懇親会」の実施と、「第10回デザイン四方山話」、「セミナー」開催等を計画と報告。又JID関東ユースの会のロゴマークについて木村理事長、阪井理事より経過説明があり討議の結果、作成したロゴマークは暫定的に使用を認めるが、デザインの再検討をすることとした。

◆中部事業支部（関）

5月21日平成12年度中部事業支部総会及び懇親会の実施。6月度連絡会及び名古屋デザインフェスティバル打合せを実施。7月12日～17日デザインプロフィール展「中部デザイン団体協議会その歩みとデザイナーたち」にJID会員パネルにて出品。7月15日CCD10周年記念出版パーティ及び7月度連絡会において、今まで中部の場合各団体との共同の事業が多かったが、今後JID独自の事業を充実させる。又Eメール、IT戦略やヤングの会などを考えていくと報告。

◆関西事業支部（佐々木）

5月20日支部総会と記念講演「中国麗江古城散見」奥村 一氏、及び懇親パーティの実施。又5月26日本部総会に出席、JIDの活動計画を確認。第1回研究部会と情報部会で「ECHO誌、ECHO賞」について検

討。その他臨時総務部会「ECHO賞」規約、業務委託書の立案検討実施。第1回エントリー締切で20名の応募があり、主催者としては30名程度の応募を希望と報告。

◆九州事業支部（山永）

現在会員の退会が問題となっており、これらを踏まえて平成12年度は、JIDと何かを考え、支部活動のあり方をもっと身近なものとして捉える、というコンセプトで事業の推進を図る。支部総会及び各地の例会を実施。今後若い人達が入会しにくいといった問題を解決するために今回の例会に学生の参加を呼びかけたと報告。

◆総務・組織委員会（秋山）

本部総務・組織委員会の体制づくりを検討し、当面の課題としては「定款改訂に伴う諸規定の見直し」を予定、他団体の規定等も参考に作成をすると報告。

◆国際・交流委員会（川上）

国際委員会

グローバルな視点で交流委員会と共催でJID国際化の新たな企画提案を実施、JID会員の人的資産（ソフト）活用と育成、また会員のデザイン、製品化された物的資産（ハード）活用と国際化を軸に次世代会員の育成に繋げていく。又APSDAへの参加とIFIの情報を会員に伝え、委員会主催の事業として「JID meet the world」をコンセプトに、若いメンバーが集まるサロン風セミナーや、他団体との交流を図ると報告。

交流委員会

交流委員会は、国際委員会と共同作業を基本とし、APSDA参加の協力、IFI（南アフリカ）会議、2001年デザイン供養、デザイナーズエイド2001の準備や、サロンミーティング計画等、又外部団体、地方自治体、各国大使館商務部等との交流を計画。その他賛助会員のメリットサービス等を考えると報告。

◆情報委員会（吉良）

情報担当

JIDホームページに掲示板をつくり、各委員会に利用してもらう。会員Eメール調査を実施。その他CAD講習会等の計画や、ぶらら以外でホームページを持っている会員をリンク（有料）を考えると報告。

出版担当

JID機関紙「インテリアデザイン」について考え、会員から多面的な意見やアイデアを募集し方向性を探る。又タウン誌的なものでも良いのでは等意見もあり、今後具体的に検討を重ねていくと報告。

JIDニュース担当

JIDニュース8・9月号（212号）の編集、今後内容について検討を重ねることとするが、報告事項中心としたものでは等いろいろな意見があり各支部等を含めより良いものに調整していくと報告。

又協会の名刺について（理事、監事、委員長等）情報

委員会でフォーマットを作成し、決定後各委員会ごとにまとめ事務局に提出作成することとした。

◆教育・研究委員会（須長、山崎、山本）

Aグループ（山崎）

デザイン教育の問題に取り組み「親と一緒に考えるインテリア造形教育」をテーマに小学生の頃から取り組むよう、親と子が面白く読める本を考え、国内外の教科書等を収集、2年後をめどに教科書、教材の作成等を計画と報告。

◆Bグループ（須長）

これからインテリアデザインに進む人達に、どう理解を深めてもらうかを考え、いろいろな物を取り上げ研究会を開き、表面的でなく深いところからインテリアデザインを考えコンセプトづくりをすると報告。

◆Cグループ（山本）

当委員会、はほのぼの空間（humanizing space-APSDA 2000のテーマ）を軸とした研究活動を行い、情報を交換しながら人間の生活空間を探っていく、又支部の方々にも参加をしてもらい具体的にしていき、将来どうゆうところから補助金等を得られるかがしていきたいと報告。

◆デザイン保護委員会（泉）

7月3日、日本デザイン団体協議会による（社）日本ジュウリーデザイナー協会事務局で研究会が行われ、「デザインの著作権についての意識調査」の討論が行われ、アンケート（著作権関係専門家に対し）を10月下旬に行う、又発表は2月～3月頃に行うと報告。

◆事業委員会（阪井）

IFFT（国際家具見本市2000）（社）国際家具産業振興会の特別イベント展示が決まり、新ワークメンバーで実施計画を進めている。その他各支部から委員会に担当者を参加していただき、各方面に事業活動を展開していくと報告。

◆会員プロモーション委員会（中川）

JIDオゾン展について2000年度はOZONE側のスケジュールがうまっており、2001年度に向かってJIDとして今何をテーマとすべきか明確にしていこう。その他名簿とワーク集については分冊とするが、デザインを共通化し出版物として体裁を整え、出版時期を来年5月頃としたいと報告。

◆選考委員会（泉）

2000年JID賞の応募要綱及び応募票を7月4日に発送、今年度は審査員に外部より小嶋一浩氏（シーラカンズ アンド アソシエイツ パートナー）と勝尾岳彦氏（日経デザイン編集長）の2名を加える。応募締切を8月末とし2001年1月にOZONEにてJID賞展を予定、その他巡回展も考慮すると報告。

(2) 平成12年度収支状況報告（5月末日現在）

平成12年度収支(5月末)報告について事務局長代理より報告。

(3) 関東通産局関係書類報告書提出について

平成11年度事業報告書及び収支決算書並びに平成12年度事業計画書及び収支予算書の提出完了。理事及び資産総額変更登記完了届並びに監事変更届の提出完了報告。

(4) 役員の日本標準産業分類に関して

(5) 日本デザイン団体協議会引継ぎ終了

平成12・13年度幹事協会は（社）日本サインデザイン協会

(6) その他

・出版社著作権協議会からの、第3回複写使用料の分配に関して

・人事

通商産業省生活産業局 デザイン政策室 班長 松前好博

・関西事業支部事務局移転

・JID NEWS 7・8月号 発行予定（8月予定）

・次回理事会開催予定（'00年度3回）

平成12年9月29日（金）

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案 協賛後援名義承認の件（5件）

事務局長代理が下記5件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「マッキントッシュとグラスゴー・スタイル展」

2000年9月15日（金）～11月5日（日）

サントリーミュージアム「天保山」

2000年11月9日（木）～12月4日（月）伊勢丹美術館

2000年12月12日（火）～2001年2月18日（日）

三重県立美術館

主催 東京新聞、中日新聞、産経新聞、開催各美術館

◎「ユトレヒト中央美術館所蔵 [Droog & Dutch Design展]

現代オランダデザインの今－プロダクトからファッションまで－

2000年10月7日（土）～11月5日（日）

主催 ㈱リビング・デザインセンター

◎「2000東京国際家具見本市」

2000年11月21日（火）～11月24日（金）

主催 ㈱国際家具産業振興会

◎立体系デザイン合同卒展プロジェクト「てつそん」

2001年2月21日～3月12日（予定）

主催 立体系デザイン合同卒展プロジェクト「てつそん」企画

◎「あかりメッセージ2000」

2000年8月23日（水）～8月29日（火）

主催 ㈱日本インダストリアルデザイナー協会

第2号議案 会員入退会承認の件（6件）

事務局長代理が下記6件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・入会（4件）

三木 慎也（関西）推薦人：清家 淳・安藤 真吾

桜井 郁子（関東）推薦人：渡辺 力・鈴木 恵三

金子 重春 (関東) 推薦人: 秋山 修治・峰尾 武
尾方 義人 (関東) 推薦人: 木村戦太郎・鎌田 博子
正会員・退会 (1件)
合田 正美 (関東)
賛助会員・退会 (1件)
住江織物(株) (関東)

第3号議案 議事録署名人選任の件

議長は川上玲子、喜多俊之両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

イタリアのデザインと 北欧のデザインキーワードを終えて

JID本部交流委員長 堀川 始

JID meet the World (第1回)

主催 日本インテリアデザイナー協会 国際・交流委員会

協賛 東京インテリアプランナー協会 国際委員会

日時: 9月29日(金) 19:00~21:30

場所: 六本木アクシスビル4F アクシスギャラリー

ゲスト: 喜多俊之、川上玲子、コーディネーター: 藤村盛三

サロンミーティングとして、気楽にインテリアデザインを語り合え、JID会員だけにとどまらず外部に開けた交流パーティーを開き、もっとJIDを知ってもらい、JID会員獲得の場にも成ればと企画しました。

今回は第1回めで、今やデザインビルの老舗となったAXISのギャラリーを、お借りしました。100人も入る広い会場を65人での、ゆとり空間にロウソクの灯りで、ワインを飲みながらイタリア、北欧のスライドとビデオを写して、ゲストのお話を聞く、学生達はこんな素敵なパーティーに来れ有難う御座居ました、と大感激でした。(学生は1000円会費で大もうけ)



東京インテリアプランナー協会の方は、もっとお付合いを深めてデザイナーの輪を広げましょう、此の次はさらに他団体にも声を掛けて下さい、の要望も有りました。関東ユースの皆さんお手伝い有難う。

まずは大成功です、二次会はAXISさんの御好意でオープンテラスを開放して頂きました。三次会? もちろん六本木ナイトはこれからです……

11月中旬に会員ワーク集の 原稿受付が始まります!

今度の会員ワーク集は会員名簿と合わせて1冊の本になります。ということは、名簿ですので会員全員に1冊無料配布されます。

けれども会員の住所を調べるのに毎回重たいワーク集を開く必要はありません。

非常にコンパクトな住所録が付録でつきます。

ワーク集掲載者と未掲載者との差がないのでは?

まずはおおきな気持ちで見て頂きたい。ワーク集と名簿が合わることでこの本がJIDの顔として魅力が増すのです。そして全員がワーク集を持つことに価値があります。もちろんワーク集掲載者には特典を考慮中。

これだけのサービスを実現するにはお金が必要です。名簿予算の100万円と広告費だけではもちろん足りません。それには前回よりも多くの掲載者を集めなくてはなりません。

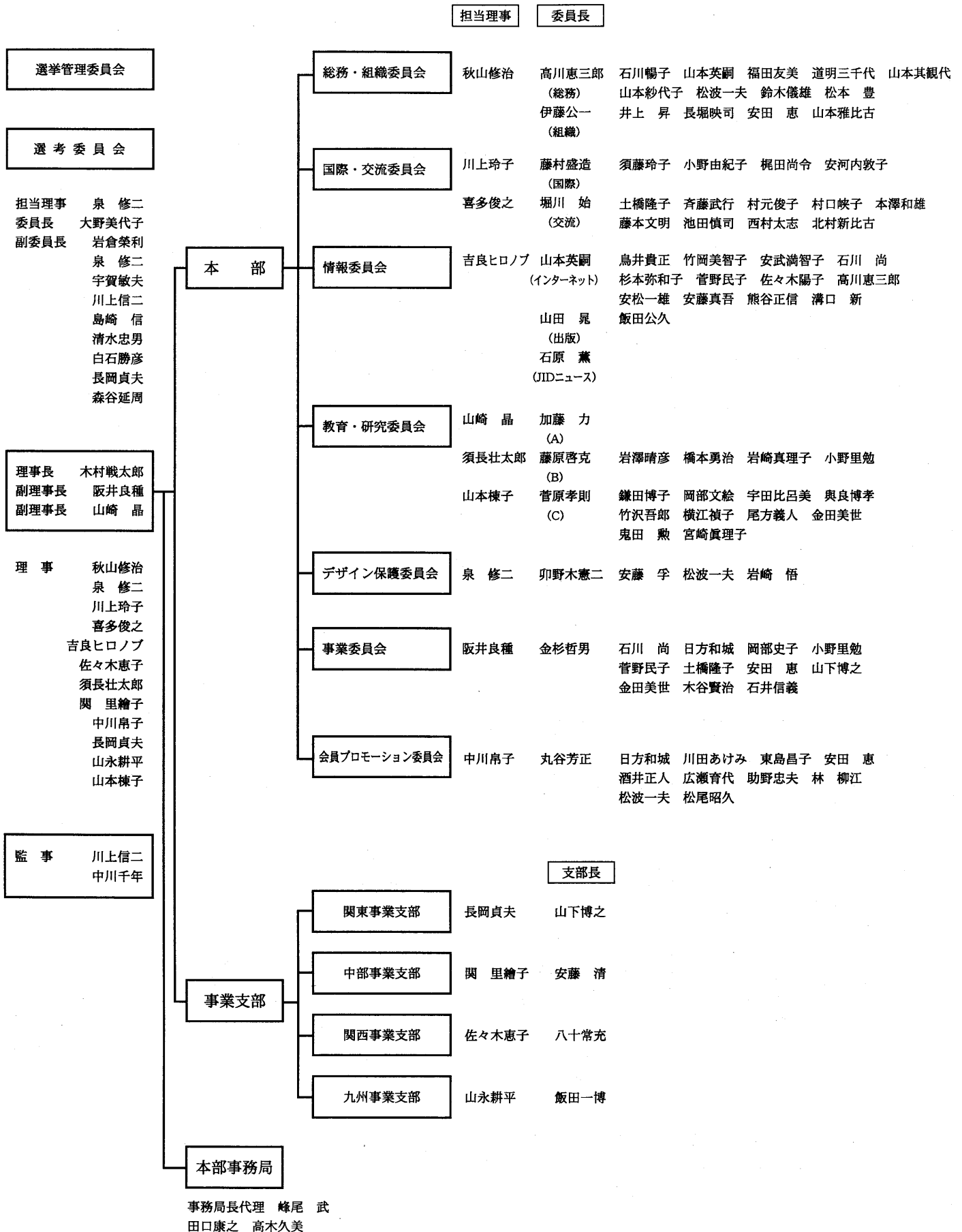
そこで、掲載ページの種類ををA4サイズの2分の1ページ、1ページ、2ページ、4ページの4種類としました。掲載料は1万5千円から8万円。2年に1度のピッチが人によっては大変なこともあります。そんな時写真1~2枚で済む2分の1ページは助かるのではないのでしょうか。

多くの会員が参加してこそワーク集が会員ファイルとして機能しはじめるのです。また、掲載されなかった方も会員名簿というかたちで参加して頂くことになるのです。

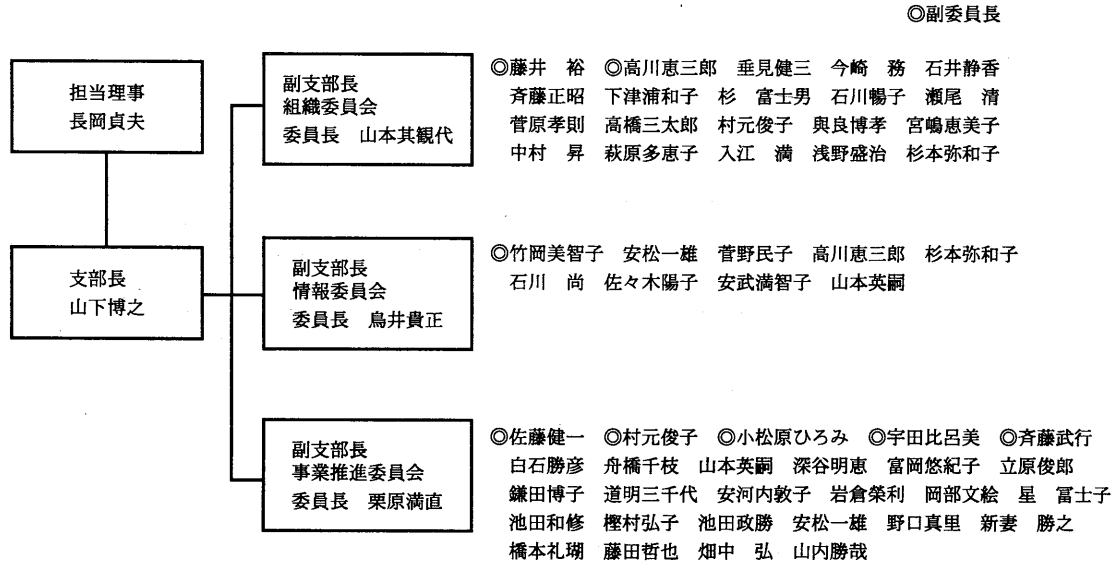
以上が、会員プロモーション委員会の議論の中で生まれた方向です。ひとりでも多くの参加を期待しています。詳しくは11月上旬発送の募集要項を参照して下さい。

本部 会員プロモーション委員会
委員長 丸谷 芳正

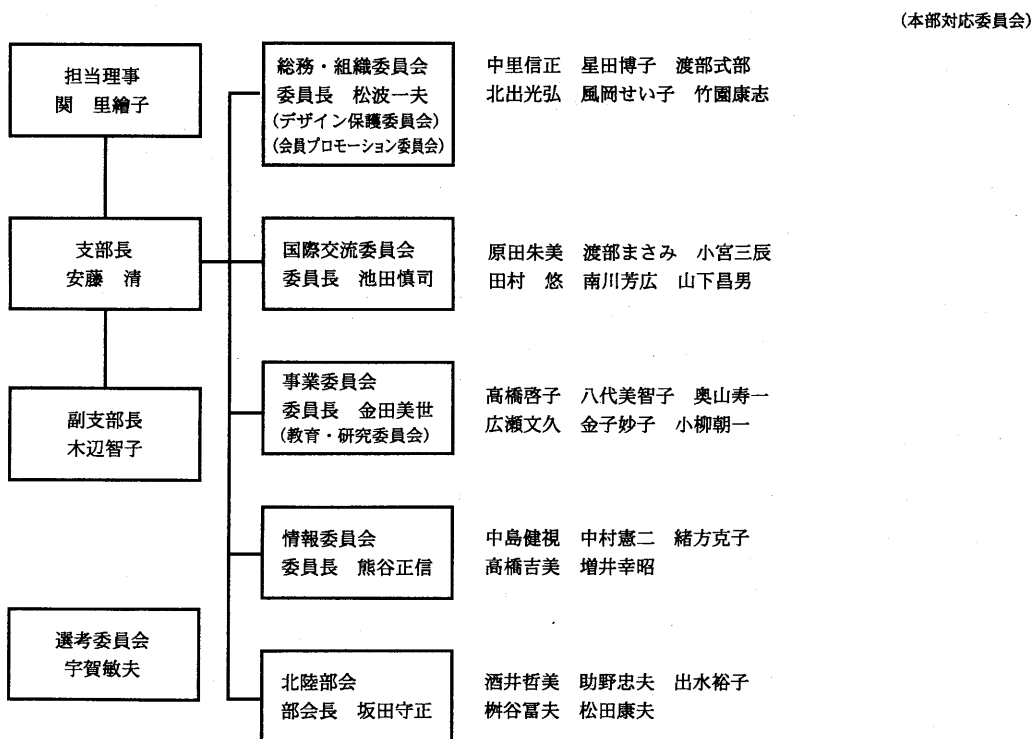
平成12～13年度 運営組織図



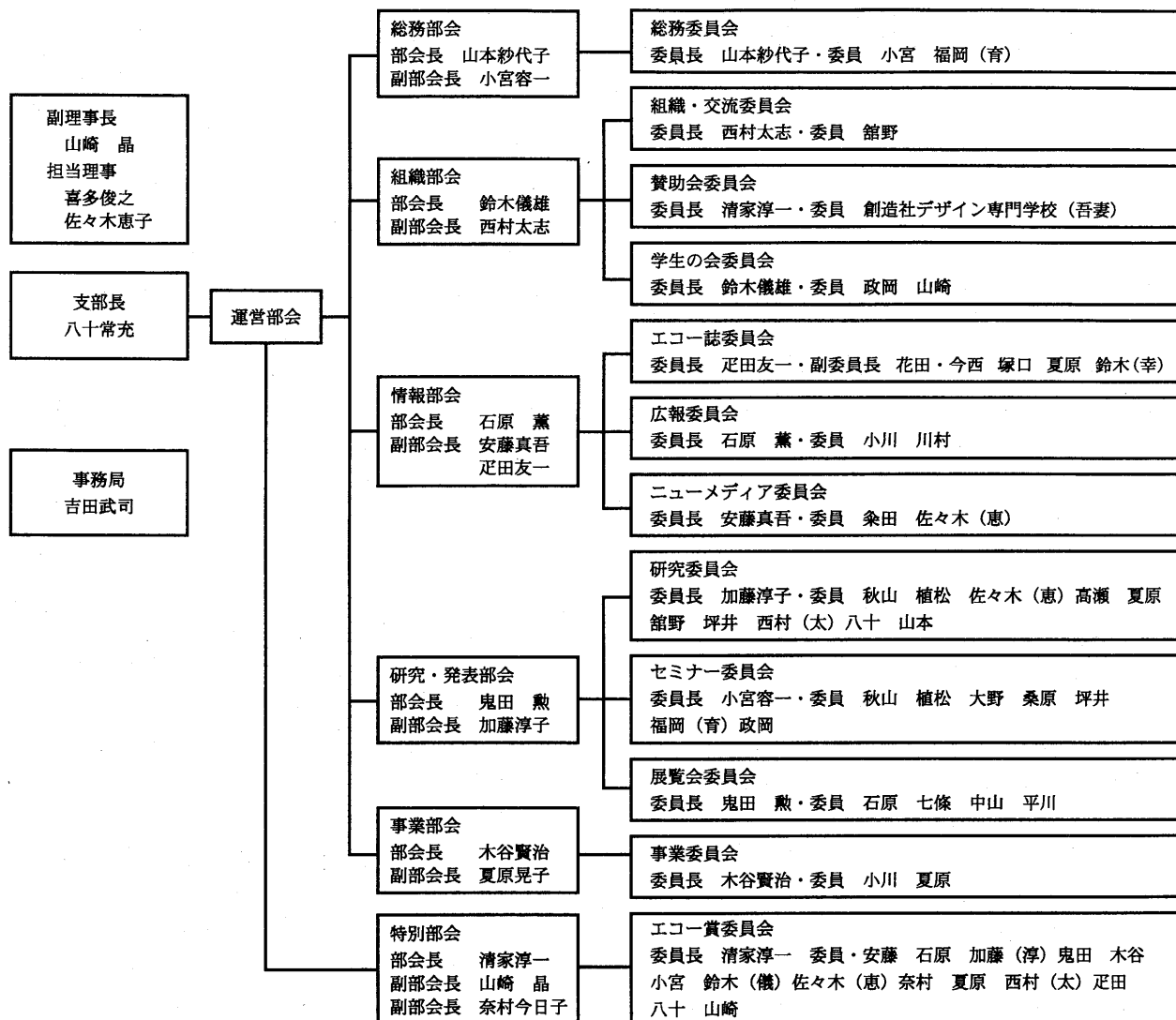
平成12～13年度 関東事業支部運営組織図



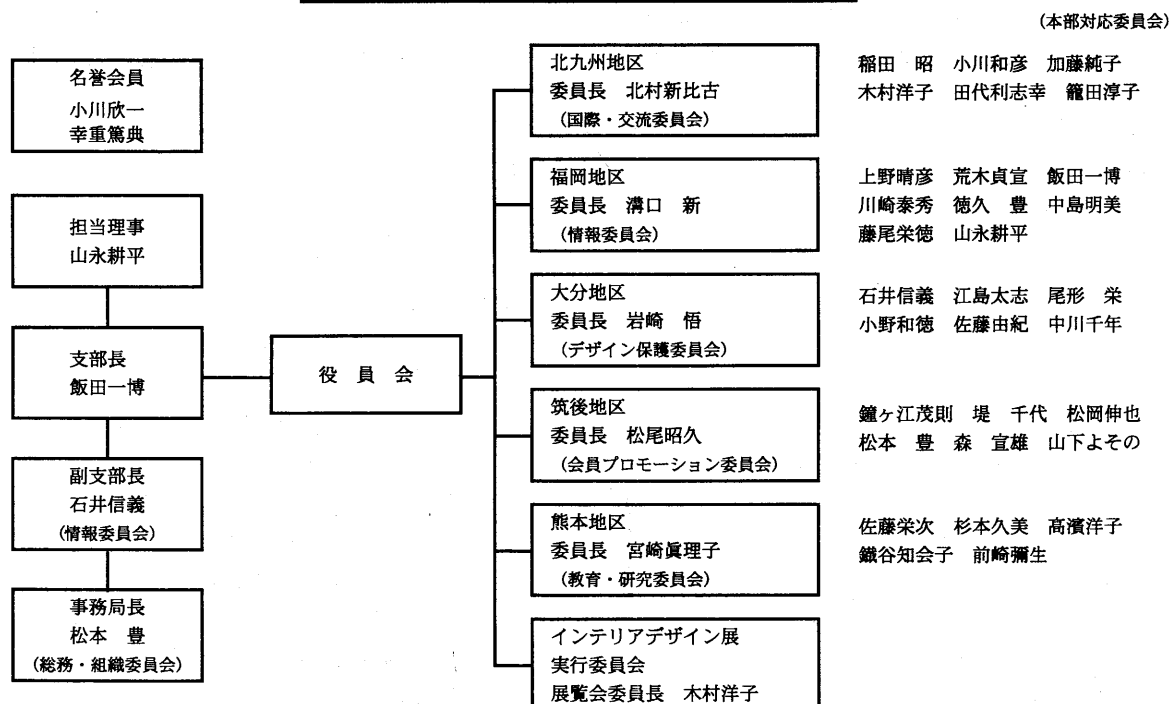
平成12～13年度 中部事業支部運営組織図



平成12～13年度 関西事業支部運営組織図



平成12～13年度 九州事業支部運営組織図



関東組織委員会『JID 関東ユース』活動報告

関東組織委員会 JID 関東ユース担当 藤井 裕

JID 関東ユースは5月20日の発足会から4ヶ月たちました。発足まで頑張ったせいか、発足後の活動が軌道に乗るまで若干の時間がかかりましたが、2回の意見交換会・交流会を経て、インターネットホームページの立ち上げ、会報の発行、そして家具工場の見学会と、やっと活動が回り始めた様です。

JID の見学会やセミナー等々にも格別の配慮をして頂いて、ユース会員が参加しています。ただ会員の大半が学生ということもあり時間等の制約も多く、社会的な制約に不慣れなこともあって、会員はやる気十分ですが、あまり多くの活動はできない状況です。また活動自体が中心スタッフの双肩に寄り掛かりすぎている部分もあって、もっと多くの活動する会員を増やしていく必要もありそうです。

“ダニエル”を中心とした家具工場見学会には、ユース会員と JID 会員を合わせて20名程度の参加があり、“ダニエル”の高橋社長のご尽力とご案内、素晴らしい解説により、とても有意義なものになりました。

見学会は岡村製作所のオフィス家具を中心に製作する協同製作所、住宅メーカーの造り付け家具を中心に製作する大恵産業株式会社、そしてオリジナル家具の株式会社ダニエルの各工場を見せて頂きました。見学会自体の報告はユース会員の田中さんのレポートをご覧ください。

JID 関東ユースでは今後も見学会、セミナー、シンポジウム等いろいろな企画を考えています。

また JID のイベントにも積極的に参加したいと思っています。これからも JID 関東ユースへのご指導、ご協力をよろしくお願い致します。

『ダニエル』見学会レポート

千葉大学工学部工業意匠学科4年 田中淳子

この度、横浜にある伝統的クラシック家具“ダニエル”の製造工場の見学会に行ってきました。約1万㎡もある

敷地内に、特注家具やユニット家具などの製作所を含め、4つ程の工場が並んでいます。

現在多くの家具メーカーでは、大半を機械に任せた大量生産を行っていますが、“ダニエル”では大まかなカットや枠組みは機械に任せても、微妙なカーブの味わいを出したり、木の表面を滑らかにする作業などは全て、熟練の職人さんが時間をかけて行っています。そのこだわりは素材選びに始まり、ダニエルでは北海道の樺桜を使用、最適な含水率になるまでじっくり乾燥させ木肌のきめや色調、木の持つ光沢などを最大限に生かせるように辛抱強い工程を守っているのだそうです。

ダニエルの微妙なカーブの曲面や、細かい脚の装飾などが多く見られますがここにも熟練の職人さん達の木に対する思い入れが表れています。テーブルの脚の装飾を35年間も手がけていらっしゃる職人さんの、実際に削っている姿を拝見させて頂いたのですが、大まかな印を切り込んだ後は全て、自らの手の感覚で微妙なふくらみやカットを施していくのです。ほんのちょっと手元が狂えば1からやり直し、という状況なのにももの20分程で脚1本を仕上げてしまうのです。なんだか職人さんの手がこの世には存在しない不思議なモノをつくりだす魔法の手のように思えてきて、食い入るように見つめてしまいました。

家具を単なる生活の道具としてみるのではなく、木の性格や肌の表情を持った生き物とし扱ってほしいという思いが十分に伝わってきました。

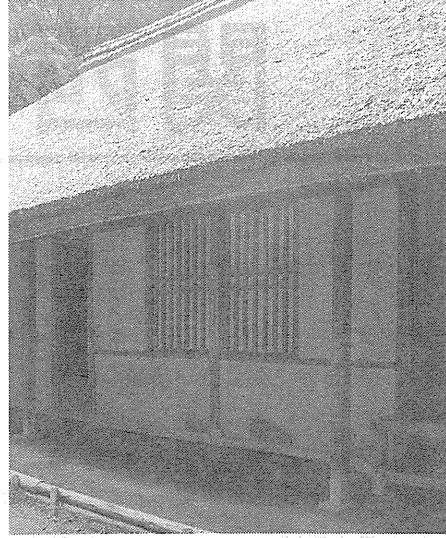
『家具は一生モノ』といいますが、みえないところまでのこだわりと手間をかけて木と向き合っているダニエルの家具なら、ほんとうに家族の一員のような愛着が湧いてくるのではないかという気がしました。

川崎市立日本民家園を訪ねて

事業推進委員会 富岡 悠紀子

夏の盛り7月20日にユース会員を含めて20名以上の参加を頂き、日本住宅の原点といえる各地の特徴を生かした数々の民家を見学しました。これは委員会の企画として長い間温めて下さっていたもので、中村圭介先生と地元ボランティアの方々詳しい説明を受けて暑さに負けず有意義な時間を過ごすことができました。そしてこれらの民家を造り、大切に使い、現代の私達に伝えて下さった人々へ尊敬と感謝を強く感じました。

自然に対抗するのではなく、謙虚に、必要最小限の規模で、従って最も有効に空間を生かし、家族と家畜を守る為の住まいを造ることを目指したことが伺われます。気候風土の特色を考慮し、数々の工夫を凝らすことがさ



りげない美しさになり、私達の心をうつ物を生み出していると思います。家の中心となる大黒柱と、家族の生活の中心となる囲炉裏の存在の大きさは、今別の何かで補うことの難しさを感じます。そこに現代のインテリアに求められているものとの共通点、課題があるように思われます。

共に働く家畜達に対する優しい配慮、同じ屋根の下で暮らすことで深まる愛情、家族で手分けして行う作業に寄って生まれる一体感、各々の身に合った作業内容と達成感、囲炉裏端での団欒、日本古来から人々が続けてきたことが、失われつつあります。

ITや欧米に目を向けがちな昨今ですが、緑の樹木の気も溢れ、人々に使い込まれた歴史のある民家が過去の状況に近い環境で保存されているこの素晴らしい民家園は皆さんの訪れを待っています。

タイムスリップ？

関東ユース会員 ICSカレッジ 石川のみ子

20世紀最後の猛暑の夏。JID会員の方々と共に初めて参加した『川崎市立日本民家園見学会』は、ボランティアの方々の解説もあり、おもわず昔にタイムスリップしてしまう程のリアル体験だった。19世紀までに立てられた民家の数々。中でも工藤家住宅は、今でいう広いワンルームを部屋ごとにパーティションで区切った造りが開放的でとても心地よい空間を作り上げていた。逆に、壁で覆われ薄暗く閉鎖的な民家があり、その地方ごとにある『ある種独特な生活環境』は、ひとびとの性格にも様々な影響をあたえていたのではないかと考えられる。

過去から学び現代に伝えていくことは非常に面白い。この経験を通し、また一歩前進することができた。

デジタルな環境を

情報委員会 安松 一雄

今、どんどんインターネットの接続料金が安くなり、以前にくらべてインターネットが利用しやすい状況になってきました。いま世の中はコンピューターの速度に支配されている感じです。利用している人は、どんどん新しい情報を取り入れ仕事をしており、利用していない人との差は、今後大きくなっていくのは目に見えます。図面や書類も直接会って打ち合わせしたり、郵送したりしなくてもインターネットを利用してすまうことができるようになりました。こんな便利なものを利用しない手はありません。

今まで私達は車、ビデオ、電卓、ファックス、携帯電話などたくさんの便利なものを取り入れてきました。

なぜ、パソコンを避けるのでしょうか？

もうすぐ21世紀。『私はパソコンが分らない。』等と言ってるインテリアデザイナーは、活躍する場を失ってしまいます。情報委員会では、お茶でも飲みながら楽しみながらパソコンの使い方をおぼえるセミナーや、JIDのホームページ、会員のホームページ、電子メールを使った会員間の連絡、その他いろいろパソコンやインターネットに関する事を企画中です。

JIDの会員がより利用しやすい環境をつくる為がんばって活動していきますので、会員の皆さんもどんどん参加してデジタルな環境を取り入れていってください。

「ECHO賞」決定

関西事業支部 支部長 八十 常充
ECHO賞実行委員会 委員長 清家 淳一

会員を対象にした初めてのデザインコンペがスタートして、9月17日にエントリーが締切られた。実行委員会は30点程の応募数を期待していましたが結果は26名28点で締切を終わりました。

さて、作品受付締切りの25日が近づき、今度は全員の人が出していただけるのかが気がかりでした。

結局応募数は15点（関西9名12点、関東1名1点、学生2名2点）で希望数の半分でした。第1回ECHO賞の主旨が会員に理解されない事と制作期間が少なかった事が応募数の少ない事になり、又作品にバラツキがあった。バラツキには企業説明会に参加する事で技術とコンセプトが明確に表現された作品と、手探りで応募されたと思われる作品が見られた。

審査は9月27日10時からATC大阪デザインセンター会議室において、JID側は喜多、夏原、加藤、清家、八十の5名と企業側は福原社長、小川常務他2名が同席して審査に入りました。

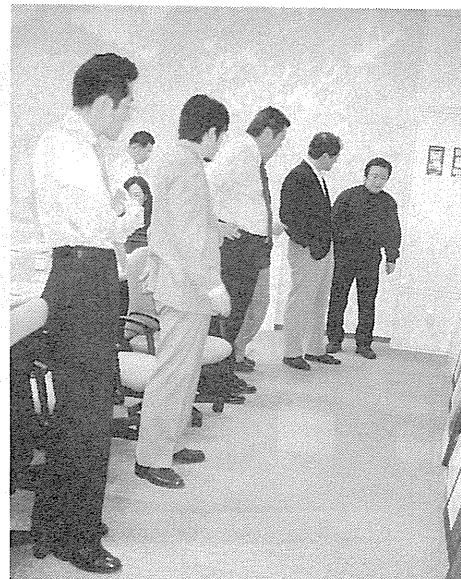
JID側の各審査員が全応募作品について慎重に検討し、作品を選出しました。

企業側に於いて、意匠権調査及び生産、販売等商品化における諸条件の検討を行ない、各賞を決定した。

尚、賞の決定後も商品の発売迄は、機密保持の為に作品の公表は来春になる予定です。

会場設営

組織部会、鈴木氏と西村氏で会場設営。作品パネルの名前かくし作業をおこない全作品15点が並べら、エントリーされたメンバーは会場から退出。



審査基準、審査方法

事業部会、木谷氏と夏原氏で審査基準作成。

5名の審査委員がグッドデザイン、グッドクォリティ、グッドプライス、グッドエコ（エコロジー）を基準に審査委員1人が6票を持ち作品を選出。8作品が選ばれた。作品の選出理由を説明、挙手で各賞候補を決定。企業側で価格、製品化への検討を行い決定した。最優秀賞1点、優秀賞1点、奨励賞3点、学生賞1点を決定する。

第1回 ECHO賞 審査結果

最優秀賞 タイトル Kinoko 安藤 真吾氏

講評 喜多 俊之氏

独創的で新しいパソコンテーブルとしての提案がある。又、場所を取らない、椅子がコンパクトなど未来性もある。

加藤 力氏

ノート型パソコンの為に立ち作業デスクというコンセプトがありそうでなさそうなアイデアである。商品化にはまだ手が入るが、これからのIT時代を象徴するワークスペースを提示している。

夏原 晃子氏

製品化はまだ一考はあるが、収めた形、使う形もユニークである。新しい空間への提案がある。

八十 常充氏

ビジネスホテルや家庭の片隅に置かれても絵になるユニークな作品だ。

優秀賞 5 山本 紗代子氏

講評 喜多 俊之氏

シンプルにまとめられている。量産性を考え、部品なども良く考えられている。

加藤 力氏

きわめてありふれたデザインであるが、コンペの主旨を良く理解し具現化させた案である。完成度が高い。

夏原 晃子氏

非常にすっきりしていて、すぐにでも使えそうであり、生産性、使用範囲にも優れている。

八十 常充氏

単純なフレームだか素直で作り勝手が評価された。

奨励賞 3 小宮 容一氏

講評 喜多 俊之氏

シンプルな構造でコストを考え、パッケージされるなどの工夫がある。単純な脚にカーブを取り入れるなど個性を持たせている。

加藤 力氏

トータルな商品の出来具合を想定している。造形的完成度は、これからつめていかなければならない。

夏原 晃子氏

今回のスポンサーの特色を、頭に入れてフィニッシュまで提案しているところが面白い。

八十 常充氏

ワンパッケージで売りやすい発想が良い。

学生賞 3 安部 文将氏

講評 喜多 俊之氏

椅子の下を利用したり、テーブルトップの下を色を変えて利用出来る可能性を与えるなど工夫がある。

加藤 力氏

これからのワークスペースの新しい、若々しいイメージを喚起する提案である。透明感にあふれ色彩の楽しさを唱えている。機能的なチェックが必要である。

夏原 晃子氏

耐久性や使用性はまた考慮が必要だが、学生らしい新しい提案としてとらえている。

八十 常充氏

パイプの良さを生かし使い勝手もむりのない作品として評価された。

記憶のデザイン展 「リサイクルデザインの未来を考える」

関西事業支部 展覧会委員長 鬼田 勲

この展示会は、さる7月27日～8月8日の期間で大阪デザインセンターの主催で行われました。JID関西事業支部は「協力」と言う形で参加。会場構成などをお手伝い致しました。

この展は、東京、新潟、北海道などで開催され、日本での巡回展は大阪が最後となり、多くの優れたリサイク

ル作品は、アメリカへ帰って行きました。

世界中から集められた120点以上のリサイクル作品・家具・建築素材・テーブルウエア・ステーションリー・遊具など、いろんな視点で、いろんな素材が甦がえる。創意と工夫。そして製作者達の情熱の様なものが作品の中から感じられました。

いろんな分野で「エコ」「地球環境」などへの取組がなされている中、これだけリアルに日常生活に戻して使える作品や商品（すでに商品になっているものもある）の一举展示は、異議のある楽しい展示会でした。そしてこの様な我々の身近に感じられる展示会を続けられることが重要であると思いました。

開催内容

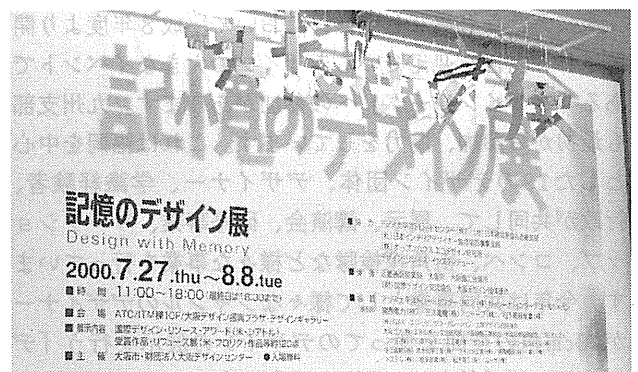
プロデュース

デザイン・リソース・インスティテュート

主催：大阪市（財）大阪デザインセンター

協力：アジア太平洋トレードセンター(株) (株)日本インテリアデザイナー協会関西支部 (株)日本建築家協会近畿支部 (株)オープンハウスエコデザイン研究所

後援：アジア太平洋トレードセンター(株) (株)カッシーナ・インターデコールジャパン 関西電力(株) 三洋電機(株) シャープ(株) 松下電器産業(株) (株)INAX エコリビングコーポレーション 大阪デザイン団体連合 大阪ガス(株) エネルギー文化研究所 大阪袋物協同組合 (株)きんでん (株)コクヨ(株) 三協アルミニウム工業(株) サントリー(株) シンコーウォール(株) 住江織物(株) 積水化学工業(株) ダイハツ工業(株) 東陶機器(株) 東リ(株) トステム(株) 根来産業(株) 松下電工(株) ムーサ(株)



入口パネル（影文字デザイン 石原）



会場風景

九州事業支部事業推進状況

支部長 飯田 一博

平成9年、11年の九州支部組織の改革により、九州独自の事業や組織の運営がされています。特に本部と異なる点は役員に北九州、福岡、筑後、大分、熊本、沖縄の各地区委員長を設けていることです。その他に展示委員長と支部長、副支部長、事務局の4名の合計10名の役員で構成され、特別な事業が発生した場合は特別事業委員長を任命しその事業にあたっています。本部に対応した委員の必要性が生じた場合も同様に処理しています。

本部や関東、関西、名古屋などに比べ、会員数も少なく、九州各県にいる会員に本部と対応した組織では支部運営が難しく、支部事業に合わせてと、これまで、何度も例会や総会において検討した結果です。

支部の事業として例会の定期的開催、会員相互及び、地域、会員以外との交流を図ることを第一としています。各地域にいる会員を地区委員長がまとめて協会の情報の伝達を行い、各地域で年に一度は例会を開催、その計画、運営を地区委員を中心に実行しています。

次に大きな事業として福岡において平成8年度より開催され5回目を迎えているデザインの大きなイベントである「デザインリーグ」への参加があります。九州支部も最初から参加、協力をしています。これは福岡を中心とした19のデザイン団体、デザイナー、学識経験者、行政が共同して、展示、講演会、研修事業、ワークショップ、コンペ、街角探検隊など様々な事業を行っています。今年は共同事業として様々なジャンルのデザイナーが40cm角の空間を使つてのデザインの展示を行う「デザインの玉手箱」、小学校の教育現場にデザイナーがかけ、学童にデザインの面白さや表現することの楽しさを教える「デザインスクールキャラバン」、デザイン相談会、ホームページの作成などが計画されています。

その他、自主事業として各団体や個人の自主的な企画が期間中に計画されています。九州支部の自主事業として、今年は「インテリアデザイン展 JID 九州 2000—つなぐ」を計画しています。詳細は木村展示委員長が後述しますので、ここでは省略します。

共同事業では教育事業「デザインスクールキャラバン」に参加、10月6日、13日（金）の3限、4限の二日間、福岡市 南当仁小学校、担当クラス 5年1において、

「動物」の教室表示板の制作を行います。動物の特徴や個性を生かして描写を行い、その単純化と木の板を糸鋸で切り塗装仕上げをするといった木工の楽しさを体験する授業を計画しています。

インテリアデザイン展 JID 九州2000について
テーマは「つなぐ」

展示委員長 木村 洋子

西暦2000年この記念すべき年。また20世紀から21世紀この大きな年の節目の今年。まさに、時を、世代を「つなぐ」にふさわしい年です。九州事業支部事業の一環として、2000年を記念し、この度「インテリアデザイン展 JID 九州 2000」を開催することとなりました。

今回はJID創設40周年の全体テーマでもありました「つなぐ」を九州支部の今回の展覧会行事としての共通キーワードとしました。

デザインが人の生活の場や環境づくりにいか強くに開わりをもちその結果どれほどの、快適さをもたらし、また人々の心を豊にしたかを振り返り、そしてその基となる素材とのつながりを通してその発展と、形態を掘り起こし、デザインの原点にせまってみたいと考えます。

我々の専門分野に限らず「つなぐ」という基本的なテーマはとかく技術的な研鑽を求めがちな、業界のバリエーションをはずしてみることから始まるかもしれません。

●たとえば「心とからだ」デザインや音楽などは、こことからだのつながりに大きな影響を与えています。

●たとえば、「教師と学生」教えるといふことと習うということ、大きなつながりがありますが、本当の次世代への発信は何なのでしょう。教室では語れない本音があるはず。

●たとえば「光と灯り」いつもわかっているような光がしていますが、原始の人が生活するのに必要だった光は、自然光とたき火の火だったわけです。この自然界のあたりがどのように人々の心をつないでなのでしょう？

私たちはその根本のつながりを知ることでもう一度自分たちの位置を見つめ直すことも大切なことだと思います。

会期中「デザインと心をつなぐ」というテーマでシンポジウムを予定しています。

第1部は「ウインザーチェア—のルーツを探る」の演題で基調講演を持ち椅子とデザインの歴史を探ります。

第2部をティータイムディスカッションとして、マリンバ演奏を組入れています。〔木〕という素材を同じくして心を動かすものは何か？他分野の方や学生さんをメンバーにお茶を飲みながら自由に語って頂きます。

ディスカッションを通して、デザインがもたらす心の

豊かさをアピールして行きたいと考えています。

会期 2000年10月26日(木)～10月30日(火)

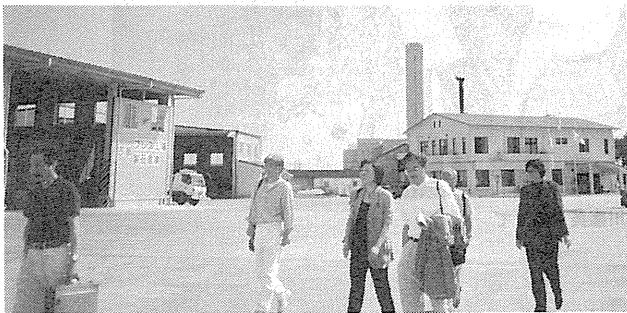
会場 松下電工ナイスショールーム福岡

地球環境保護を目指して
石坂グループ(リサイクル事業)の研修と
御船藍工房、見学と体験染め

九州事業支部会員 宮崎 真理子

初めての地区委員長のお仕事にドキドキしながら8月26日がやってまいりました。熊本市東部の郊外のグランメッセ メインエントランス1:00集合。久しぶりのなつかしい再会に皆様の笑顔かステキでした。

早速、近くの、石坂グループさんへ移動。常務の石坂孝光氏がビデオ設備の整った研修室で、「21世紀に豊かな自然と資源を、今、私達にできること」と題して、情熱的に講演して下さいました。私達の身近にありながら知らなかったことが多く、お話の中に産業廃棄物の適正処理と再資源化を目指す内容と、未来の子供達にすばらしい環境の地球を残していかなければいけないことを切に感じました。これからはゴミだしの日もよりはりきって、しっかり選別してやっていきたいと思いました。広大な工場の設備などその後見学させていただき、汗を流して作業されている方々の姿に敬服してしまいました。



石坂グループ工場にて

3:00頃に石坂グループさんを出発して、近くの高速を利用して御船町へ移動。20分くらいで御船藍工房へ到着。

早速、ステキな雰囲気のお店の奥の部屋に通され、バングナの作成に布をタコ糸でしばることから説明を受け実習致しました。初めての作業に全員真剣そのものでした。藍の自然な美しさに感動しながら男性もエプロン姿に長靴ではりきり、手もつまもまっ青な藍色に染まり、楽しく笑いを交えての作業でした。

作業の後はステキな藍の作品に囲まれてコーヒータイムを和やかにオーナーの福永幸夫氏は私の高校時代の美術の先生でもあります。佐賀大の美術科のご出身で、山永耕平先生の先輩にあたることがわかり、出会いに又、和やかさが増しまい。



御船藍工房体験染め

2つの研修が5:00に終わり、今度は熊本市中心部の新町の江戸時代の細川家別邸の喜楽にての懇親会会場へと向かいました。

移動も時間も予定通りスムーズに運び皆様に感謝です。懇親会のみのご出席者(熊本の3名)が加わり、3パターンの変った雰囲気になり半日が充実した様に思えました。

飯田支部長のご挨拶の後、京都で舞妓さんをなさった、こりんさんがお給仕をなさりながらも京都のお話でもり上がり、非常に楽しい楽しい懇親会になりました。

一応、喜楽で解散致しましたが、2次会は、佐藤氏設計のワインバーへつれていっていただき、又、又、ステキな夜の時間を楽しみました。

インテリアのお店の仕事と子育てに主婦に囲まれてオットリしている私が地区委員長をつとめることができたのも皆様の励ましと協力のお陰です。ありがとうございました。

最後に運転手を務めてくれた21歳の息子、真に感謝してペンをおきたいと思います。



喜楽にて

「もの」作りが、もの作りに出会う感動

中部事業支部事業部会委員 金田 美世

今年度の事業計画に基づき、地域の「もの」作りを、衣・食・住に対象を捉え、個々の目で確認・体験・交流出来るようにとプランを立てました。

第一弾『衣』 7月29日、鳴海の宿 有松絞りの街道を訪ねて。

“竹田喜兵衛商店” 380有余年続く尾張御用商人屋敷



有松：久野染工場にて



有松：早川嘉英工房にて

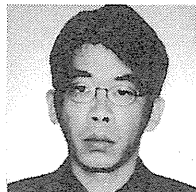
の素晴らしい庭・茶室・座敷等、空間と、絞り作家の竹田耕三氏による『世界の絞り染めと街並保存』現在、有松が都市計画の真只中にあり高速道路等もからみ保存等、大変な問題と認識。『久野染工場』は、絞りをテキスタイルに取り込み（しわくちやの皺、ブリーツ等も絞りだそうな）海外ブランドとも提携しインテリアに進出希望の久野剛資氏と交流。『蔵工房』早川嘉英氏は絞りの枠をアルミ・ガラス・陶にと広げる絞り作家で蔵の中で作業中を訪問、対談。いずれも貴重な体験でした。

第二弾『食』11月18日、伊勢湾に続く運河の街 蔵の街『半田』を訪ねます。博物館《酢の里》。酒の文化館《国盛》（もちろん試飲有）にて食の『もの』作り体験・対談を予定。瓦屋根の続く昔ながらの「ミツカン酢」工場内で8000年の歴史を持つ健康食『酢』を味わい、作り手と交わすアナログの時間を大切にします。飛び入り可（詳細は金田迄）

〔 新 入 会 員 の 紹 介 〕

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
み き し ん や 三 木 慎 也 会員番号 1181 	<勤務先・事務所> <推 薦 者>	コクヨ（株）店舗事業部 大阪府大阪市東成区大今里南6-1-1 〒537-8686 TEL 06-6973-9377 FAX 06-6976-1272 大阪府富田林市向陽台3-3-4-409 〒586-0082 TEL 0721-29-4709 清家 淳一・安藤 真吾
さ く ら い い く こ 桜 井 郁 子 会員番号 1182 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	西武建設（株）設計部 埼玉県所沢市くすのき台1-11-2 〒359-8550 TEL 042-926-3393 FAX 042-926-3408 東京都新宿区高田馬場1-8-10-302 〒169-0075 TEL・FAX 03-5292-3915 渡辺 力・鈴木 恵三
かね こ し げ はる 金 子 重 春 会員番号 1183 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	（有）シゲキ工房 東京都渋谷区広尾1-8-9-403 〒150-0012 TEL 03-3423-7012 FAX 03-3473-7013 東京都目黒区三田1-4-4-305 恵比寿ビュータワー TEL・FAX 03-5423-3095 秋山 修治・峰尾 武
お が た よ し と 尾 方 義 人 会員番号 1184 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	岡山県立大学デザイン学部 岡山県総社市窪木111 〒719-1197 TEL・FAX 0866-94-2072 岡山県岡山市西辛川1003 〒701-1213 木村 戦太郎・鎌田 博子
く す み や す し 楠 美 靖 会員番号 1185 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	Wish-Bone ウイッシュ ボーン 大阪府河内長野市原町490-1-601 〒586-0021 TEL・FAX 0721-50-2695 同 上 TEL 0721-50-2195 FAX 0721-50-2695 清家 淳一・安藤 真吾

【新入会員の紹介】

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
かな せ ひこいち 梁 瀬 彦 市 会員番号 1186 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	ヤナセ産業（株） 東京都新宿区西新宿3-3-23-906 〒160-0023 TEL 03-3343-0242 FAX 03-3343-0249 東京都北区豊島5-4-1-322 〒114-0003 TEL・FAX 03-3912-0755 山下 博之・峰尾 武
うえ や よしひろ 上 山 佳 宏 会員番号 1187 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	プランニング ネットワーク アソシエイツ（有） 東京都渋谷区上原3-43-10 〒151-0064 TEL 03-3485-5271 FAX 03-3485-5270 東京都渋谷区大山町40-17-302 〒151-0065 TEL 03-3465-7189 FAX 03-3465-7112 浅野 盛治・峰尾 武



2000/11~12

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報（2000年通巻213号） 2000年10月31日発行

発行所／社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人／木村戦太郎

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集／本部情報委員会 制作／be-one